

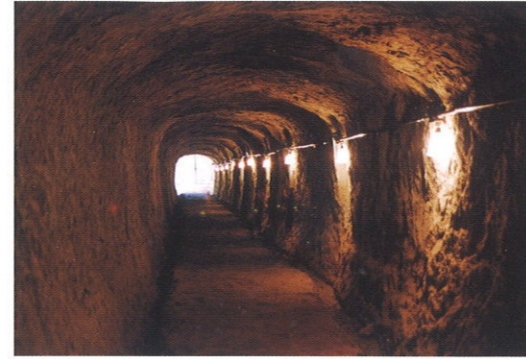
うつのみやちゅうおうじょしこうこうあか  
宇都宮中央女子高校赤レンガ倉庫 (旧第六十六歩兵連隊倉庫) D・2



宇都宮中央女子高校赤レンガ倉庫は、1907 (明治40) 年の宇都宮への旧陸軍第14師団設置に伴い、歩兵第66連隊の厨房関係施設として建設されました。その後、軍縮により66連隊が廃止されると、跡地は栃木県師範学校に引き継がれ、戦後は県立中央女子高が移転しました。平成14年に改修が行われ、現在は、多目的ホールに用いられています。切妻造・平屋建て、外壁がイギリス積み煉瓦造、小屋組は木造トラスです。宇都宮に残る軍事関係施設のうち、唯一の明治期の建物です。

[平成12年4月28日 国登録]

はちまんやま とくしゅち かごう  
八幡山の特殊地下壕 D・4

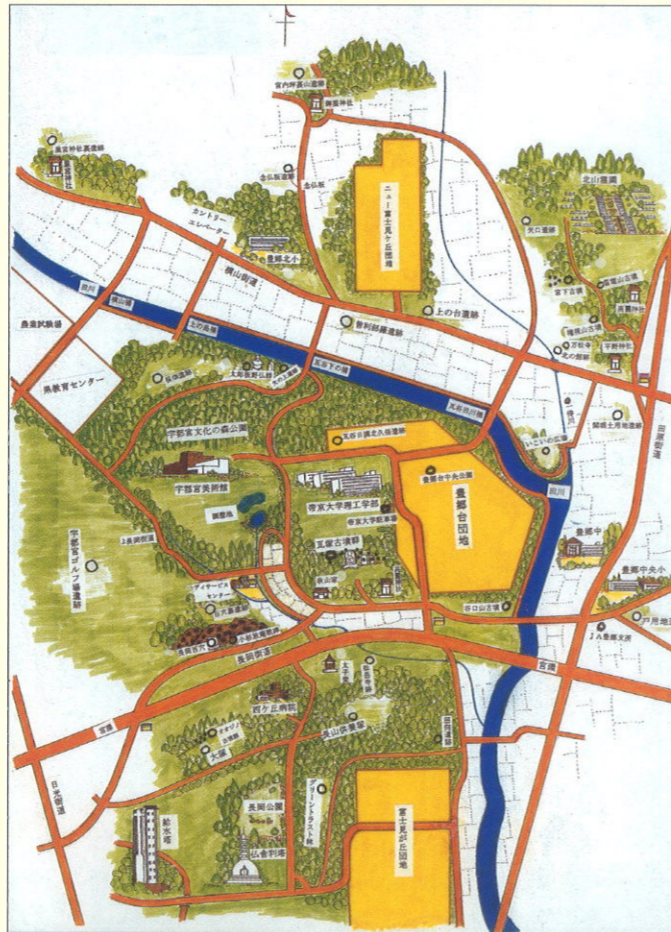


第二次世界大戦末期の1945 (昭和20) 年、旧陸軍が空襲と本土決戦に備え、八幡山公園内に建設を進めていたのがこの八幡山の特殊地下壕です。建設は6月中旬からはじまり、終戦までの約2ヶ月間で、出入り口11ヶ所、総延長721mにおよぶ横穴を掘り上げました。完成する前に終戦となり、実際に使用されることはありませんでした。

戦争の悲惨さと平和の大切さを語り継ぐものとして、現在もひっそりとその姿をとどめています。

とよさと  
豊郷まほろばの道

豊郷地区では、西部及び田川周辺に多数の古墳・遺跡が散在していることから、これらを結ぶ散策路を「豊郷まほろばの道」として整備しました。標準コースやサブコースがあり、コース上には、子どもたちの手作りの道標が設置されています。ぜひ、歩いてみませんか。



とよさと  
豊郷の歴史

「豊郷」という地名の由来については、いろいろな説がありますが、宇都宮二荒山神社の神領(堀米、関沢、瓦谷)があり、同神社の祭神である豊城入彦命と深い関係があることと、肥沃豊穡の地であることから「豊郷」と称したといわれています。

豊郷地区は、古くから拓け、宇都宮丘陵には「北山古墳群」、長岡町の「瓦塚古墳群」など、6世紀頃の古墳時代に造られた古墳が数多く見られます。また、7世紀頃に築造された「長岡百穴古墳」は、横穴古墳としては県内有数のものです。

さらに地区内には「鎌倉街道」や「奥州街道」と呼ばれる道が通っていたことから、数多くの民話や伝説が残されています。

現在、豊郷地区では、各種団体の活動が活発に推進されており、宇都宮の代表的な民俗芸能である「瓦谷の神楽」、「関堀の獅子舞」、「堀米の田楽舞」を伝承する保存会の活動をはじめ、長岡百穴愛護会、谷口山古墳愛護会、瓦塚古墳群愛護会、北山古墳群愛護会が結成され、地域住民が一体となって文化財の保存活動に取り組んでいます。

一方平成9年3月には「宇都宮美術館」がオープンし、美術館を中心とした「うつのみや文化の森」が整備されたほか、豊郷台などの新たな住宅地が造成され都市化の勢いが強まる傾向にあります。

地元では郷土誌「豊郷のすがた」の発刊や地元の歴史などを訪ねる「まほろばの道」を選定し、「健康で文化の薫る豊かな郷に新風を」のキャッチフレーズのもと、郷土意識の高揚と活力のある地域づくりを推進しています。